

1. 活動の概要

7月7日(金)、安来市立能義小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに島根県埋蔵文化財調査センターの職員の説明で、能義小学校周辺および安来市内の遺跡についてスライドを見ながら学びました。小学校周辺にも古墳や横穴墓をはじめ、奈良時代の税である米を収める倉の跡など多くの遺跡があることが紹介されました。また、土笛が使われた弥生時代の生活の様子についても話を聞きました。その後、県内の遺跡から出土した弥生時代の土器や石器、安来市内で出土した土笛など本物の出土品を見たり、実際に触れてみる体験もしました。

休憩の後、土笛づくりを行いました。土笛は弥生時代に祭りなどの特別な場所で使われたと考えられています。思いうような大きさや形に仕上げるのに苦労しましたが、皆さん頑張って作り上げることができました。吹き方も難しかったのですが、高い音と低い音を上手に吹き分ける児童もいてびっくりしました。授業の最後に、感想を発表して終了しました。

2. 活動の様子

1) 小学校周辺の遺跡について学ぶ 本物の出土品にふれる



「能義小学校周辺の遺跡を紹介します。」



「弥生時代から奈良時代まで、多くの遺跡があります。」



「弥生時代の遺跡から出土した本物の土器です。」



「石器や安来市内から出土した土笛も見てください。」

2) 土笛



土笛づくりに集中しています。



指穴を開けて、もうすぐ完成です。

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから(アンケートの回答より)...

心に残ったこと

- 土笛づくり
- 本物の土器、石包丁、土笛に触ったこと
- 自分たちの住む能義地区にもたくさんの遺跡があることがわかったこと

もっと知りたいこと・体験してみたいこと

- 土器をつくってみたい。
- 実際の遺跡に行ってみたい。(能義地区以外の遺跡にも行ってみたい。)
- 土笛をどんな人が吹いていたのか知りたい。

2)担任の先生から...

- 社会科で学習した遺跡について、自分たちの住む島根・安来にも多く存在することを知り、学習内容を身近なことと感じたり、地域の歴史に興味を持ったりするなど学習内容が深めることができた。
- 体験活動を通して、古代人の文化・生活への興味・関心が高まった。
- (資料として提供された)地図上で、(児童の)自宅の位置を確認しながら進行すれば、遺跡の場所と自宅との位置関係が分かり、より身近に感じられたのではないかと思います。
- 事前の打ち合わせが、丁寧に具体物を見せていただいていたので、初めての体験学習も見通しをもって取り組むことができた。

3)埋蔵文化財調査センターから

能義小学校校区内の遺跡を中心に、安来市内の遺跡や出土品を紹介しました。校区内にあり、出雲国風土記にも登場する「舎人郷正倉」の標柱も紹介したのですが、通学路にしている児童さんが少なく、知名度はいまひとつでした。土笛づくりでは、材料の粘土が大きすぎて、作るのに苦労した方がいる一方、2つ作った児童もいました。うまく音をだすのは難しいのですが、土笛の形や穴の大きさを工夫しながら頑張っていました。

また、感想にもありましたが、遺跡は児童の皆さんの近くにたくさんあることがわかっていただけたと思います。遺跡は教科書や本の中のものではなく、自分たちの住む地域にもあることに気づいて、地域に興味を持ち、大切にしていきたいきっかけになれば幸いです。